

広島大学附属小学校英語科の取り組み

— 第1年目の実践報告 —

篠村 恭子 (SHINOMURA Kyoko)

広島文教女子大学

井上 京子 (INOUE Kyoko)

広島大学教育国際室附属学校再編計画室

要約

広島大学附属小学校では、平成25年度より第1学年から英語を教科として指導する「英語科」を創設した。初年度（平成25年度）は、①6年間の系統性のある小学校英語科カリキュラムの作成と実践、②評価方法の開発、③CLIL（Content and Language Integrated Learning, 以下CLIL）単元開発を研究課題として授業実践と研究を行った。本稿では、研究課題①と②について紹介し、学年末に児童を対象として行ったアンケートの結果の一部を紹介する。

（キーワード：カリキュラム，CAN-DOリスト，評価）

1. はじめに

グローバル化が急速に進展する中、学校教育においても「グローバル人材」の育成が急務とされている。グローバル人材育成推進会議(2012)によると「グローバル人材」には以下の要素が含まれる。

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

広島大学附属小学校では、このうちの「要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力」の育成をめざし、平成25年度より第1学年から英語の授業を教科として実施する「英語科」を創設した。本稿では、広島大学附属小学校英語科の創設第1年目の取り組みについて論じることとする。

2. 広島大学附属小学校英語科（平成 25 年度）の概要

本校英語科の目標と平成 25 年度の指導体制は次のとおりである。

《広島大学附属小学校 英語科目標》

英語を通じて、ことばや文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語コミュニケーション能力の基盤を養う。

表 1 各学年の指導時間・指導形態・学習場所（平成25年度）

学年	時間数	指導形態	場所
第1・2学年	週1時間 (年35時間)	英語専科教員とALTのTT	各教室・特別教室(英語教室)での一斉指導
第3～6学年	週2時間 (年70時間)	英語専科教員・ALT・英語科講師	各教室・特別教室(英語教室)での少人数指導

広島大学附属小学校では、児童に英語の技能を身につけさせることを目指し、英語科の目標を「英語コミュニケーション能力の基盤を養う」こととした。指導体制については、第1・2学年は各学級(32名)での授業、第3～6学年は各学年約80名を3等分した少人数指導(26～28名程度)を取り入れた。

また、小学校では6年間での児童の発達段階が大きく異なることから、英語科の目標に加えて、低・中・高学年各段階のねらいも設定し指導を行った。低・中・高学年各段階のねらいと学習内容の積み上げの概要は次のとおりである。

表 2 低・中・高学年各段階のねらい（平成 25 年度）

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	ことばや文化についての知識・理解
低	英語を用いて積極的にコミュニケーションを図る。	自分や身の回りのものについて英語で聞くことや話すことができる。		自分や身の回りのものについての英語の単語や表現を知る。
中		地域や郷土について英語で聞くことや話すことができる。		英語の綴りや発音・イントネーションなどについて知る。
高		社会や世界について英語で表現することができる。	社会や世界について英語で理解することができる。	ことばの決まりや、異なる文化について理解する。

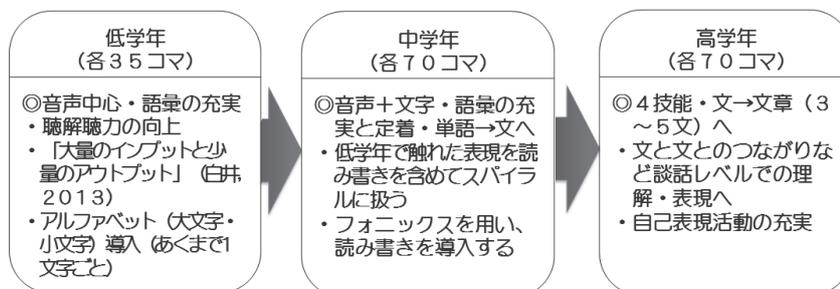


図 1 低・中・高学年各段階の学習内容の積み上げの概要

3. 研究課題

平成 25 年度は次の 3 点を研究課題として取り組んだ。

① 6 年間の系統性のある小学校英語科カリキュラムの作成と実践

② 評価方法の開発

③ CLIL 単元開発 (③については、本稿では紙幅の都合で割愛。詳細は、小銭, 2014c 参照。)

①については、文部科学省(2011)による「国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策」で述べられている CAN-DO リストの必要性を鑑み、CEFR-J に準拠した CAN-DO リストを作成した(資料①)。また、小学校英語教育でしばしば取り上げられるリテラシー(読み書き)学習の導入時期と方法の検討も行った。

②については、英語科の目標に照らして児童の英語の技能を適切に測るため、ペーパーテストとともにパフォーマンス評価についても十分な機会をもてるよう配慮した。

4. 研究課題① 6 年間の系統性のある小学校英語科カリキュラムの作成と実践

英語科の授業実践を行うため、まず、カリキュラムの作成を行った。その際、以下の 2 点を考慮した。

- (1) 学習者に求められる英語力を明確にするための CAN-DO リストの作成と活用
- (2) リテラシー(読み書き)学習の導入の時期と方法の検討

(1) CAN-DO リストの作成と活用

これまでの学習指導要領(中・高等学校外国語科)では、例えば、中学校では三年間を通して目指す外国語科の目標(方向目標)は示されていたものの、そこに至るまでにどのような到達段階を経ながら英語の力を高めていくのかという具体的な基準が示されていなかった。平成 23 年 6 月に「外国語能力の向上に関する検討会」がとりまとめた「国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策」(文部科学省, 2011)では、各中・高等学校が学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を CAN-DO リストの形で具体的に設定することについて提言がなされた。今後は外国語学習の入門期を担う小学校でも CAN-DO リストが必要となるであろうと考え、CEFR-J(投野, 2013)に準拠した CAN-DO リストを作成した(資料①)。

また、この CAN-DO リストを学習者の自己評価のツールとし自律的な学習態度の育成を図るため、各単元の学習内容に応じた CAN-DO リストを作成し、ポートフォリオ(米田, 2013)としても活用した。

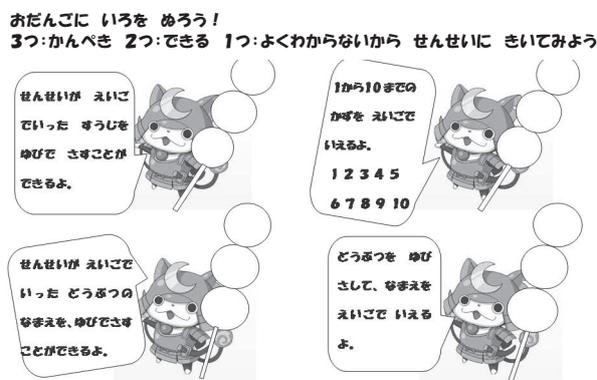


図 2 第 1 学年の CAN-DO リストの例

(2) リテラシー（読み書き）学習の導入の時期と方法の検討

児童期の外国語学習に関しては様々な理論や方法があるが、多くの理念を包括しているカーテン&ペソーラ(1999)の示す児童の外国語習得に関する考え方を以下に引用する。これらは全て児童の外国語学習にとって必要なことであるが、特に①⑤⑥について留意してカリキュラム開発と実践を行なった。

表3 外国語習得に関する考え方(H.カーテン・C.A.B.ペソーラ, 1999より引用)

- | |
|--|
| ① 母語の使用は最小限にし、常に学習言語を使って授業を行う。学習言語と母語は明確に区別する。 |
| ② 学習者は語彙や情報の受け身的な理解者というよりは、意味の積極的な作り手である、と教師は認識する。 |
| ③ 学習は生徒が関心を持っている有意味で伝達性のある場面で行われる。年齢の低い学習者にとって、そういった場面は社会、文化的場面、教科の内容、ゲーム、歌、押韻詩、物語、それに絵画、手芸品、スポーツの実践も含む。 |
| ④ 学習は具体的な経験を通して行われる。すなわち、視覚教材、事物、実践的な活動が教授活動の中心的な部分をなす。 |
| ⑤ <u>母語習得の過程を重視し、初期の段階では話すことより聞いて理解することに重点を置く。</u> |
| ⑥ <u>言語発達の初期の段階でも、年齢や学習者の興味に合わせて読み書きを伝達手段として使用する。</u> |
| ⑦ 学習評価は学習目標や教授方法を考慮しながら度々、定期的に行う。 |
| ⑧ 文化は主として討論や読書というよりは、文化的な資料や実践を通して学習する。 |
| ⑨ 授業計画はテーマに沿ってなされ、文化、教科内容、言語使用の基本的目標間のバランスを考慮してなされる。 |
| ⑩ カリキュラムと授業は、文法シラバスではなく伝達シラバスに沿って作成される。文法は分析を通してではなく、言葉の使用を通して教えるべきであって、文法の為の文法指導となってはならない |
| ⑪ 言語活動は学習者の興味、発達段階、経験に見合ったものでなければならない。また、それらはいろいろな学習スタイルに適合したもので、動作や身体的活動を含んだものでなければならない。 |
| ⑫ 外国語学習のプログラムは、認知能力の発達や国際教育をも含んだ、小学校のカリキュラム全体の目標に合い、それを促進するものでなければならない。 |

(下線は執筆者による。)

音声による言語学習に文字の使用を加える意義について、JASTEC 関東甲信越支部調査研究プロジェクトチーム(1999)は次の4点を挙げている。

1. 子どもの知的欲求に合致している
2. 音声の把握を自覚的、分析的にさせる
3. 記憶内容を定着、蓄積させる
4. 自習を可能にし、学習材料を拡げる

これらを鑑みると、第1学年から英語授業を経験している本校児童にとって、中学年以降でリテラシー（読み書き）を導入することは有効であると考えられる。正確さを徹底する必要性は感じないものの、読みたいと思う児童が文字と音声を一一致せる手がかりをもつためのリテラシー（読み書き）の指導は有用であると考えた。

これらのことから、低学年では音声を中心としたインプットを重視しながら、ピクチャーカードなどの視覚教材に文字を提示して児童が早い段階からアルファベットに触られるようにした。中学年では、ボトムアップ的なリテラ



図3 色・形かるた (教室)



図4 文字付き絵カード
(英語教室)

シーの指導としてフォニックスの学習を取り入れた。高学年では、Graded Readersでのトップダウン的な読む活動や、辞書を活用しながらの書く活動も取り入れた。

(3) 低・中・高学年各段階での授業の実際

① 低学年での授業

初めて英語に触れる低学年では、楽しみながら英語を学ぶ体験活動を重視し、主に身近な語彙や表現の音声でのインプットに主眼を置いてALTとのTTではほぼ全てを英語で授業を行った。教室で着席して授業を行うこともあったが、多くは英語教室で歌やゲームやアクティビティを通して体を動かしながら学習を行った。はじめは全て英語で行われる授業に戸惑う様子も見られたが、多様な活動を通して豊富なインプットに触れながら英語を活用する中で、分からないことがあっても様々な手がかりをもとに推測しながら聞き続けようとする態度が身についてきたと感じた。

② 中学年での授業

中学年では、低学年で慣れ親しんだ語彙・表現をスパイラルに扱い、定着を図った。第3学年からは文字も扱い、フォニックスの学習を取り入れて徐々に「読むこと」の学習を導入した。また、児童の負担を考慮しながら「書くこと」の指導も取り入れた。

表4 第3学年でのフォニックスの指導過程(小銭, 2014a より引用)

<p>4月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アルファベットの (大文字・小文字) をアルファベット読みで読む。 ・ アルファベットをペンマンシップで練習する。 ・ アルファベットの音読みを練習する。1度に3文字ずつ提示し、2回毎に新しい種類を導入した。定着の具合を見て、適宜復習を行った。 <p>9月～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アルファベットの音読みを練習する。(4月から継続) ・ 母音・母音の組み合わせや子音・子音の組み合わせなどの読み方を練習する。 <p>4月から10月のフォニックスの帯学習を経て、音読みのみで構成される単語は初見の単語でもある程度正しく読めるようになった。この段階で、これまでの帯学習に加え、5時間程度を用いて「書くこと」につなげる単元を構成した。</p> <p>1～3時間目にはアルファベットカード(小文字)を用いて、2文字～7文字までの単語を聞き取り、その単語をペアで協力しながら構成する練習を繰り返し行った。3時間目には、カードで単語を作る代わりにノートに単語を書き取らせた。4時間目には、単語を書くことに加え、英語の文を書くときのルールを確認し、手本の英文をまねて書く練習をした。5時間目には、カードで作成した単語のうちのいくつかをノートに書かせた後、at, up, get, six と順に書き取らせ、その後 I get up at six. と書き取らせた。</p>	<p>おと</p> <p>表5 音読みで綴ることのできる単語の例</p> <table border="1"> <tr> <td>2文字</td> <td>at, up, it, in, on, if</td> </tr> <tr> <td>3文字</td> <td>get, tap, set, six, ten, dog, cat, cup, ink</td> </tr> <tr> <td>4文字</td> <td>help, spin, hunt, jump, stop, cost, cast</td> </tr> <tr> <td>5文字</td> <td>panic, swing, print, melon, drink</td> </tr> <tr> <td>6文字</td> <td>magnet, spring,</td> </tr> <tr> <td>7文字</td> <td>subject</td> </tr> </table>	2文字	at, up, it, in, on, if	3文字	get, tap, set, six, ten, dog, cat, cup, ink	4文字	help, spin, hunt, jump, stop, cost, cast	5文字	panic, swing, print, melon, drink	6文字	magnet, spring,	7文字	subject
2文字	at, up, it, in, on, if												
3文字	get, tap, set, six, ten, dog, cat, cup, ink												
4文字	help, spin, hunt, jump, stop, cost, cast												
5文字	panic, swing, print, melon, drink												
6文字	magnet, spring,												
7文字	subject												



図5 聞こえてきた単語をカードで作る(magnet)

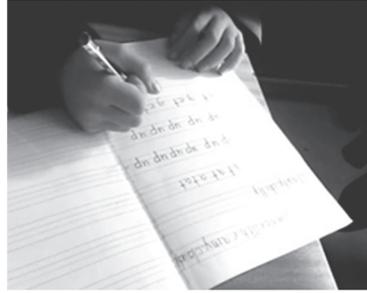


図6 聞こえてきた単語をノートに書く

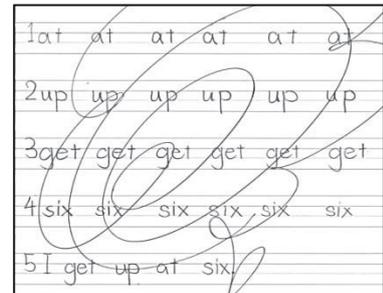


図7 児童のノート

③ 高学年での授業

高学年では、「読むこと」「書くこと」の割合を増やし、児童の負担を考慮しながら4技能を統合させて指導を行った。例えば、「読むこと」の学習では、Oxford Reading Treeの絵本を読む学習を取り入れた。「書くこと」の学習では、これまでに学習してきた表現を用いてアメリカのNorth Davis Elementary Schoolとグリーンディングカードの交換を行った。



図8 辞書を用いて学習

これらの自己表現活動と組み合わせて、英和・和英辞書も活用させた。辞書を活用できれば、「～は英語で何というのか」という好奇心にも自分で対応でき、自律的な学習にもつながると考えたからである。授業の際に机の上に辞書を常備させることで、教師の指示がなくとも自分で辞書を引き、疑問を解決する姿も見ることができた。

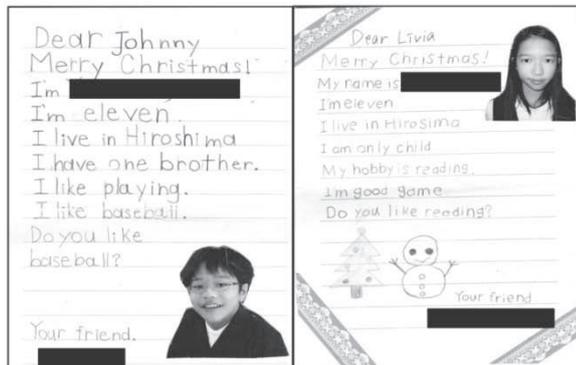


図9 第5学年児童が書いたクリスマスカードと返事で送られてきたバレンタインカード

(4) 異文化理解の取り組みについて

日頃の授業でALT（米国出身）による異文化の紹介等も取り入れたが、児童に「外国の文化＝米国の文化」という先入観をもたせてしまう可能性がある。そこで平成25年度は、広島大学教育学研究科の留学生3名（中国・タイ・インドネシア出身）を招致し、出身の各国について英語でプレゼンテーションを行ってもらう機会を設けた。児童も日頃触れることの少ない文化圏について知ることができ、「タイでは男性と女性とで使う言葉が違ふと知った。」「(イスラム文化圏で)女性が顔を見られてはいけない理由がなぜか気になった」などの感想をもつことができた。平成25年度は1回の実施であったが、今後も広島大学への留学生等の協力を得ながら機会を増やしたい。

5. 研究課題② 評価方法の開発

第1・2学年については、通常の授業での各活動の観察に加え、年度末に1回インタビューテストを実施した。第3～6学年では、7・11・2月末にペーパーテスト、年度末に1回のインタビューテストに加え、音読テストやスピーチ・プレゼンテーションなどのパフォーマンス評価を実施した。

ペーパーテストは、公益財団法人日本英語検定協会の実施する児童英検を参考に作成した。主にリスニングを通しての試験で、児童はスクリーンに提示される絵や写真を見ながら教師の出す問題を聞き取り、それらに選択肢で答えるものである。テストの結果は概ね良好であったが、「テストを受けることで、確認になった」「テストを受けて、解説を聞いてわかってきた」という肯定的な感想と、「難しかった」「家で英語のテスト勉強をするのが大変」などという否定的な感想との両方がみられた。



図 10 ペーパーテストの例

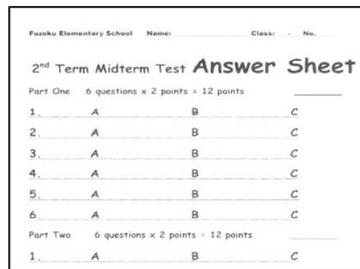


図 11 解答用紙の例



図 12 広島紹介プレゼン



図 13 インタビューテスト

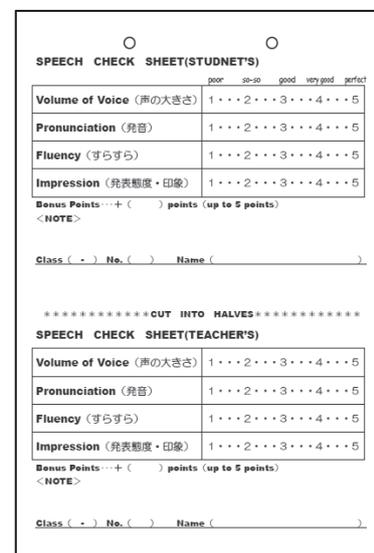


図 14 スピーチ評価票

小学校で英会話などの授業が導入されはじめた当初は、評価を行うこと自体が児童を英語嫌いにしてしまうという誤った認識があったようである(小銭, 2009)が、バトラー(2005)の指摘するように、「評価を導入することで、英語嫌いが増えるのではなく、評価の方法とその結果の使い方を誤ることで英語嫌いを作る可能性が出てくる」と考えている。適切な評価とフィードバックは自律的な学習態度にも繋がるはずである。

6. 取り組みの成果と今後の課題

平成 25 年度は研究課題として、①6年間の系統性のある小学校英語科カリキュラムの作成と実践、②評価方法の開発(、③CLIL 単元開発)に取り組み、今後の礎となる試案の作成と実践ができたと考えている。

児童の反応については、年度末に全学年を対象に行ったアンケートのうち第2・6学年の回答の一部を抜粋すると右のようであった。英語の技能面での伸長に関しては、外部試験等での測定を行っていないため定かではないが、ある程度の技能は身につけているのではないかと考えている。

平成25年度の取り組みに基づき、更なる改善と新たな実践を積み重ねていくことが今後の課題である。

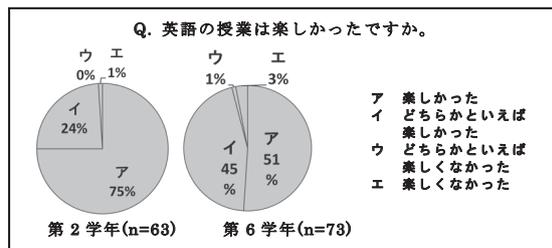


図15 学年末アンケート結果①

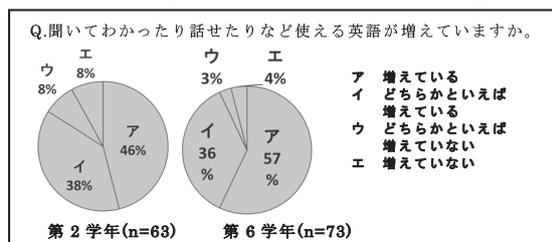


図16 学年末アンケート結果②

引用・参考文献

- カーテン&ペソーラ著；伊藤克敏ほか訳(1999)『児童外国語教育ハンドブック』東京：大修館書店。
- グローバル人材育成推進会議(2012)「グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議 審議まとめ）」
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/global/1206011matome.pdf>
- 小銭恭子(2009)「小学校教員と中学校英語科教員が英語活動を通して児童に期待する到達度と小学校への英語導入に際しての課題に関する意識調査」『日本教科教育学会誌』第32巻(3), 71-80.
- 小銭恭子(2013)「広島大学附属小学校英語科の取り組み」『学校教育』第1154号, 18-23.
- 小銭恭子(2014a)「広島大学附属小学校英語科での授業づくり—中学年での文字の導入—」『学校教育』第1159号, 24-31.
- 小銭恭子(2014b)「グローバル人材に求められる英語力を身につけさせるために」『学校教育』第1160号, 22-29.
- 小銭恭子(2014c)「広島大学附属小学校英語科での授業づくり—他教科(算数)の内容を取り入れた低学年での授業—」『学校教育』第1161号, 30-37.
- JASTEC 関東甲信越支部調査研究プロジェクトチーム (1999)「子どもの言語習得と文字—日本の子どもの英語学習における文字の役割について—」『日本児童英語教育学会研究紀要』第18号, 37-53.
- 投野由紀夫(2013)『CAN - DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR - J ガイドブック』東京：大修館書店。
- バトラー後藤裕子(2005)『日本の小学校英語を考える—アジアの視点からの検証と提言—』東京：三省堂。
- 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 外国語編』東京：東洋館出版社。
- 文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編』東京：開隆堂出版。
- 文部科学省(2011)「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401_1.pdf
- 米田佐紀子(2013)「ポートフォリオに基づく一貫した目標設定による日本人学習者の英語力に関する研究」文部省科学研究費補助金研究成果報告書 研究課題番号：23520765.

資料① 広島大学附属小学校英語科 CAN-DO リスト(CEFR-J 準拠)(平成 25 年度版)

		1・2年生	3・4年生	5・6年生
理解	聞くこと	<p>【PreA1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきり話されれば、日常の身近な単語を聞き取ることができる。 ・英語の文字が発音されるのを聞いて、どの文字かわかる。 <p>【A1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。 ・日常生活に必要な重要な情報(数字、品物の値段、日付、曜日など)を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞きとることができる。 	<p>【A1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣味やスポーツ、習いごと、日頃の生活などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。 ・日常生活の身近なトピックについての話を、ゆっくりはっきりと話されれば、場所や時間等の具体的な情報を聞きとることができる。 	<p>【A1.3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。 ・(買い物や外食などで)簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。 <p>【A2.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。 ・学校の宿題、旅行の日程などの明確で具体的な事実を、はっきりとなじみのある発音で指示されれば、要点を理解することができる。
	読むこと	<p>【PreA1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック体で書かれた大文字・小文字がわかる。 ・アルファベットを「音読み」することができる。 	<p>【PreA1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけることができる。 <p>【A1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「駐車禁止」「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。 ・ファーストフード・レストランの、絵や写真がついたメニューを理解し、選ぶことができる。 	<p>【A1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。 ・身近な人からの携帯メールなどによる、旅の思い出などが書かれた非常に短い簡単な近況報告を理解することができる。 <p>【A1.3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。 ・簡単な語を用いて書かれた、挿絵のある短い物語を理解することができる。
話すこと	やりとり	<p>【PreA1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な語句を使って、「助けて!」や「～が欲しい」などの自分の要求を伝えることができる。また、必要があれば、欲しいものを指さしながら自分の意思を伝えることができる。 ・一般的な定型の日常の挨拶や季節の挨拶をしたり、そうした挨拶に回答したりすることができる。 	<p>【A1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。 ・家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、(必ずしも正確ではないが)なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。 	<p>【A1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)、において単純に回答することができる。 ・スポーツや食べ物などの好き嫌いなどのとでもなじみのあるトピックに関して、はっきり話されれば、限られたレパートリーを使って、簡単な意見交換をすることができる。 <p>【A1.3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣味、習いごとなどのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。 ・基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。
	発表	<p>【PreA1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な語や基礎的な句を用いて、自分についてのごく限られた情報(名前、年齢、好きなものなど)を伝えることができる。 <p>【PreA1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前もって用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物などを見せながらその物を説明することができる。 	<p>【A1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)を伝えることができる。 ・基礎的な語句、定型表現を用いて、簡単な情報(時間や日時、場所など)を伝えることができる。 	<p>【A1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、簡単な意見を言うことができる。 <p>【A1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前もって発話することを用意した上で、日常生活の物事を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、簡単に描写することができる。 <p>【A1.3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で意見を言うことができる。 <p>【A1.3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前もって発話することを用意した上で、日常生活に関する簡単な事実を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で描写できる。
書くこと	書くこと		<p>【PreA1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの大文字・小文字、単語のつづりをブロック体で書くことができる。 <p>【PreA1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語のつづりを1文字ずつ発音されれば、聞いてそれとおり書くことができる。また書いてあるものを写すことができる。 <p>【A1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。 	<p>【A1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分について基本的な情報(名前、住所、家族など)を辞書を使えば短い句または文で書くことができる。 <p>【A1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。 ・簡単な語や基礎的な表現を用いて、メッセージカード(誕生日カードなど)や身近な事柄についての短いメモなどを書ける。 <p>【A1.3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。 ・趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。

* ディスクリプタはCEFR-J、投野 由紀夫(2013)「CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標CEFR-Jガイドブック」より引用

小銭恭子(2013)「広島大学附属小学校英語科の取り組み」『学校教育』(2013年10月号)No.1154, pp18-23. 広島大学附属小学校 学校教育研究会 より抜粋(一部改訂)

資料② 広島大学附属小学校英語科カリキュラム（試行案）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
4月	お互いについて知ろう 【自己紹介】 お元気ですか 【あいさつ】	アルファベットを復習しよう 【文字を読む】(復習) 春といえば・・・? 【季節に関する語】	This is me. 自分について話そう! 【自己紹介】(復習) 帯:【単語をまねて書く・フォニックス】 【絵本を読む】	なりきり自己紹介をしよう 【自己紹介】(復習) 【国名】 帯:【絵本を読む】	自己PRコマercialを創ろう 【自己紹介】 ◎Show and Tell 帯:【絵本を読む】	どこに行きたい? 【行きたい国・場所を尋ねる・答える】 【行きたい国・場所の理由を伝える】 帯:【絵本を読む】
5月	いろ・かたち 【好みを尋ねる・答える】	大きな数① 【数を数える・尋ねる・答える】 【0～100】	大きな数② 【数を数える・尋ねる・答える】 【0～1000】 帯:【単語をまねて書く・フォニックス】 【絵本を読む】	ジェスチャーゲームをしよう 【今していることを尋ねる・伝える】 帯:【絵本を読む】	大丈夫? 【体調不良を訴える】 帯:【絵本を読む】	もし・・・? 【したいこと・欲しいものを尋ねる・答える】 【条件(もし～)を表す】 【理由を伝える】 帯:【絵本を読む】
6月	好きなもの・好きではないもの① 【好みを尋ねる・答える】 【果物・野菜】	どこに住んでいるの? 【住んでいるところを尋ねる・答える】 どうやって学校に行くの? 【交通手段を尋ねる・答える】	海の日っていつ? 【日付を尋ねる・答える】 バースデイカレンダーを作ろう 【誕生日を尋ねる・答える】 帯:【単語をまねて書く・フォニックス】 【絵本を読む】	できること・できないこと 【できること・できないことを尋ねる・答える】 帯:【絵本を読む】	電話をかけよう 【電話をかける・応答する】 帯:【絵本を読む】	ちくわは何からできている? 【CLIL⑦:家庭科(日本食)】 【材料を尋ねる・答える】 【作り方を尋ねる・答える】 帯:【絵本を読む】
7月	自己紹介のミニスピーチをしよう! ◎スピーチ①	友達について話そう! 【他者紹介】 ◎スピーチ②	ことば遊びをしよう① 【形容詞・動詞】 帯:【単語をまねて書く・フォニックス】 【絵本を読む】 ◎定期テスト①	理想の部屋 【部屋にあるものを伝える】 帯:【絵本を読む】 ◎定期テスト①	夏休みの予定は? 【予定を尋ねる・伝える】 帯:【絵本を読む】 ◎定期テスト①	日本文化を紹介しよう 【日本について紹介する】 ◎新聞づくり ◎定期テスト①
8月						
9月	いくつかな? 【数を数える・尋ねる・答える】 【0～20】 【動物】 ◎インタビューテスト①	消しゴム、持っている? 【持ち物を尋ねる・答える】 帯:【文字を書く・フォニックス】 ◎インタビューテスト①	学校紹介をしよう 【学校紹介をする】 【学校の中の場所】 ◎インタビューテスト①	夏休みの出来事① 【過去の出来事を尋ねる・伝える】 【買い物をする】 【食料品・日用品】 帯:【絵本を読む】 ◎インタビューテスト①	夏休みの出来事② 【過去の出来事を尋ねる・伝える】 誰のもの? 【持ち主を尋ねる・答える】 帯:【絵本を読む】 ◎インタビューテスト①	夏休みの出来事③ 【過去の出来事を尋ねる・伝える】 この人は誰?(CLIL⑧:社会(中2)(日本史・世界史)) 【過去の偉人】 【過去の人物について尋ねる・答える】 帯:【絵本を読む】 ◎インタビューテスト①
10月	ハロウィーンを楽しもう!①	ハロウィーンを楽しもう!② 帯:【文字を書く・フォニックス】	今、何時? 【時刻を尋ねる・答える】 ぼく・わたしの1日 【1日の生活について説明する】 帯:【単語をまねて書く・フォニックス】 【絵本を読む】 ◎スピーチ③	どこに住んでいるの? 【住んでいるところを尋ねる・答える】 どうやって学校に行くの? 【交通手段を尋ねる・答える】 ◎スピーチ③	NYは今、何時?(CLIL⑥:社会(中1)(時差)) 【時刻を尋ねる・答える】 【時差を計算する】 帯:【絵本を読む】 ◎定期テスト②	どちらが大きいの?(CLIL⑨:算数(面積・体積の比較)) 【面積・体積を計算・比較する】 帯:【絵本を読む】
11月	好きなもの・好きではないもの② 【好みを尋ねる・答える】 【菓子・料理】	おにごっこは好き? 【遊びに誘う】 ◎スキット 帯:【文字を書く・フォニックス】	辞書を使ってみよう! 【辞書の活用・文字を書く】 帯:【単語をまねて書く・フォニックス】 【絵本を読む】 ◎定期テスト②	どちらが長いの?(CLIL④:算数(単位換算)) 【計算をする】 帯:【絵本を読む】 ◎定期テスト②	国際交流プロジェクト① 海外の小学生に手紙を書こう 【外国の文化を知る】 【クリスマスカードを作成する】	My Best Memory in Fuzoku 思い出スピーチ ◎スピーチ 帯:【絵本を読む】 ◎定期テスト②
12月	クリスマスを楽しもう!①	クリスマスを楽しもう!② 帯:【文字を書く】	クリスマスを楽しもう!③ 【クリスマスカードを送る】 帯:【文字を書く】	クリスマスを楽しもう!④ 【サンタさんへのお手紙】 帯:【文字を書く】		
1月	英語で算数!(CLIL①:算数) 【たし算・ひき算をする】	英語で算数!(CLIL②:算数) 【かけ算をする】 帯:【文字を書く・フォニックス】	郵便局はどこですか?(CLIL③:社会(地図記号)) 【道案内をする】 帯:【単語をまねて書く・フォニックス】 【絵本を読む】	ことば遊びをしよう②(CLIL⑤:国語(漢字・英単語の成り立ち)) 【言葉の成り立ちを比べる】 帯:【絵本を読む】	国際交流プロジェクト② 広島を紹介しよう 【故郷広島について紹介する】 ◎プレゼンテーション	平均すると?(CLIL⑩:算数(平均の計算)) 【平均を計算する】 帯:【絵本を読む】
2月	アルファベットに親しもう! 【文字を読む】	英単語に親しもう! 【単語をまねて書く・フォニックス】	スリーヒントクイズ大会! ◎スピーチ・プレゼンテーション 帯:【単語をまねて書く・フォニックス】 【絵本を読む】	1/2成人式スピーチ 将来の夢 ◎スピーチ 帯:【絵本を読む】		6年生のまとめ ◎インタビューテスト② ◎学年末テスト
3月	1年生のまとめ ◎インタビューテスト②	2年生のまとめ ◎インタビューテスト②	3年生のまとめ ◎インタビューテスト② ◎学年末テスト	4年生のまとめ ◎インタビューテスト② ◎学年末テスト	5年生のまとめ ◎インタビューテスト② ◎学年末テスト	

* 網掛けは CLIL(Content and Language Integrated Learning ; 内容言語統合型学習) 単元

【引用・参考文献】

小銭恭子(2013) 「広島大学附属小学校英語科の取り組み」『学校教育』第 1154 号, 18-23. 広島大学附属小学校学校教育研究会

投野由紀夫(2013) 『CAN - DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR - J ガイドブック』 東京: 大修館書店